

有隣会記念講演会開催状況

(1回～14回は敬堂会、15回以降は有隣会)

回	年月日	所 属	講 師	タ イ ト ル
1	1955年 7月8日	東京大学教授 法学博士	尾 高 朝 雄	国際経済建設と日本の役割
2	1956年 8月13日	京都大学教授 文学博士	吉 川 幸 次 郎	中国古典と現代
3	1957年 7月28日	日本ユネスコ国内委員会々長 元文部大臣・日本育英会々長	前 田 多 門	東西文化の交流
4	1958年 7月28日	東京大学教養学部講師	竹 山 道 雄	日本の美しさ
5	1959年 7月28日	建築家	丹 下 健 三	日本建築の伝統と現代建築
6	1960年 7月28日	京都大学人文科学研究所長	桑 原 武 夫	日本の近代
7	1961年 7月28日	京都大学人文科学研究所教授	水 野 清 一	東西文化交流の跡を訪ねて
8	1962年 6月23日		大 原 總 一 郎	欧洲諸国の印象
9	1963年 7月29日	交通史学会々長	三 井 高 陽	楽しき郵便史
10	1964年 7月28日	石井記念愛染園理事長 今川学園理事長 大阪セツツルメント研究協議会会長	大 三 原 木 總 一 郎 大 三 木 達 子	石井十次翁の回顧 民間社会事業と石井十次先生
11	1965年 9月25日	才能教育研究会会長	鈴 木 鎮 一	世界の夜明けは子供から 児童の才能教育について
12	1966年 7月28日	文学博士 大手前女子大学長	中 村 直 勝	和気清麿公と治水
13	1967年 7月28日	北海道大学名誉教授 医学博士	児 玉 作 左 衛 門	アイヌ民族について
14	1968年 7月29日	前京都大学長 京都大学名誉教授 医学博士	平 沢 興	脳から見た人類
15	1969年 7月30日	元東京大学総長	茅 誠 司	大原さんと二十一世紀の日本
16	1970年 7月27日	東京大学名誉教授 経済学博士	大 内 兵 衛	社会主義の婦人像
17	1971年 7月28日	朝日新聞論説委員 元東京工業大学教授 ドクター・オブ・フィロソフィ	永 井 道 雄	何のための教育か
18	1972年 7月27日	板画家	棟 方 志 功	風流
19	1973年 7月27日	陶芸家 日本民芸館々長	濱 田 庄 司	バーナードリーチのこと
20	1974年 7月27日	経済評論家	稲 葉 秀 三	日本の経済はどうなるか
21	1975年 7月28日	労働科学研究所理事長	森 戸 辰 男	敬堂の夢と現実
22	1976年 7月28日	京都大学人文科学研究所教授 文学博士	会 田 雄 次	未来社会と日本の人間関係

有隣会記念講演会開催状況

(1回～14回は敬堂会、15回以降は有隣会)

回	年月日	所 属	講 師	タ イ ト ル
23	1977年 7月27日	前文部大臣	永 井 道 雄	日本の教育を考える
24	1978年 7月27日	ハーバード大学教授 京都大学教授	広 中 平 祐	これからの教育について
25	1979年 7月27日	組織工学研究所所長 工学博士	糸 川 英 夫	これからの世の中とくらし
26	1980年 7月27日	大阪市立大学教授 大阪ボランティア協会理事長	柴 田 善 守	石井十次と大原孫三郎
27	1981年 7月29日	京都市立芸術大学教授・前学長	梅 原 猛	私の日本学
28	1982年 7月27日	日本学士院院長 経済学博士	有 澤 廣 巳	民主主義を守るために —大原總一郎氏を回想して思うこと—
29	1983年 7月27日	経済評論家	稲 葉 秀 三	日本の現在と将来 —大原總一郎氏を回想して—
30	1984年 7月27日	教育学博士 京都大学教授	河 合 隼 雄	病いの意味
31	1985年 7月27日	前駐米特命全権大使	大 河 原 良 雄	日米関係の展望
32	1986年 7月26日	東北大学教授 半導体研究振興会常務理事 (研究所長)	西 澤 潤 一	これからの電子工業
33	1987年 7月28日	詩人 評論家	大 岡 信	日本の文化と世界
34	1988年 7月28日	京都大学教授 総合研究開発機構理事 法学博士	矢 野 暢	文明としての日本
35	1989年 7月28日	朝日新聞社取締役論説主幹	松 山 幸 雄	国際化時代の日本と日本人
36	1991年 7月26日	作家	陳 舜 臣	旅と文学
37	1992年 7月28日	日本学士院会員 青山学院大学教授 東京大学名誉教授	小 宮 隆 太 郎	最近の日米経済関係
38	1993年 7月27日	京都大学名誉教授 日本モンキーセンター所長	河 合 雅 雄	サルはどうしてヒトになったか
39	1994年 7月27日	神戸大学教授	五 百 旗 頭 真	変動する世界と日本
40	1995年 7月27日	ニューヨーク市立大学教授	霍 見 芳 浩	ボーダレス地球時代の日本再活
41	1996年 7月25日	大阪大学名誉教授 東亜大学大学院教授	山 崎 正 和	文化と政策と地域社会
42	1997年 7月25日	生命誌研究館副館長 大阪大学連携大学院教授	中 村 桂 子	二一世紀は“生命”を基本に
43	1998年 7月28日	慶應義塾大学経済学部教授	島 田 晴 雄	日本再浮上の構想
44	1999年 7月27日	大原美術館長	小 倉 忠 夫	文化と国際性

有隣会記念講演会開催状況

(1回～14回は敬堂会、15回以降は有隣会)

回	年月日	所 属	講 師	タ イ ト ル
45	2000年 7月28日	京都造形芸術大学学長	芳 賀 徹	“洋画”の運命 ～日本近代のなかの画家たち～
46	2001年 7月26日	元 国連事務次長 日本予防外交センター会長	明 石 康	世界の中の日本
47	2002年 7月26日	ノンフィクション作家・評論家	柳 田 邦 男	いのちを映す言葉
48	2003年 7月25日	大原美術館館長	高 階 秀 爾	西洋の美と日本の美 —絵画に見る美意識の東西—
49	2004年 7月27日	国際日本文化研究センター教授	川 勝 平 太	海の洲(くに)の顔—国づくりと瀬戸内海
50	2005年 7月27日	財団法人大原美術館理事長 倉敷芸術科学大学客員教授	大 原 謙 一 郎	美神の使徒と巖頭の獅子 —児島虎次郎と石井十次と 倉敷をめぐる話題—
51	2006年 7月27日	建築家	安 藤 忠 雄	文化の力
52	2007年 7月27日	児童文学作家	あ さ の あ つ こ	岡山が与えてくれたもの
53	2008年 7月25日	岡山大学 資源生物科学研究所 教授 准教授 准教授 准教授 教授	武 田 和 義 江 崎 文 一 且 原 真 木 榎 本 建 敬 馬 建 鋒	倉敷からみた地球環境の現状と未来
54	2009年 7月29日	㈱クラレ代表取締役会長 国際日本文化研究センター所長 大原美術館館長 くらしきコンサート代表 テレビマンエオン エグゼクティブプロデューサー	和 久 井 康 明 猪 木 武 徳 高 階 秀 爾 大 原 れ い こ	生誕百年・大原總一郎を考える
55	2010年 7月27日	工学博士 旭化成株式会社 フェロー	吉 野 彰	リチウムイオン 二次電池の開発経緯と今後の展開
56	2011年 7月27日	静岡文化芸術大学学長 (財)林原美術館館長	熊 倉 功 夫	花鳥風月 日本の美
57	2012年 7月27日	青山学院大学特任教授 前国際日本文化研究センター所長	猪 木 武 徳	関東大震災と日本の経営者たち
58	2013年 7月24日	民俗学者	神 崎 宣 武	高梁川流域の風土と気質
59	2014年 7月29日	公益財団法人労働科学研究所所長	酒 井 一 博	暉峻義等の精神を現代に生かす —暉峻義等の思いと実践—
60	2015年 7月28日	公益財団法人サントリー文化財団 特別顧問	山 崎 正 和	装飾としての藝術と認識としての藝術
61	2016年 7月27日	JAXA シニアフェロー／教授	川 口 淳 一 郎	太陽系大航海時代に挑む
62	2017年 7月28日	独立研究者	森 田 真 生	数学を通して人間を考える —岡潔と数学の「情緒」—
63	2018年 7月27日	京都大学大学院法学研究科教授	待 鳥 聡 史	アメリカ政治の基本構造とトランプ政権

有隣会記念講演会開催状況

(1回～14回は敬堂会、15回以降は有隣会)

回	年月日	所 属	講 師	タ イ ト ル	
64	2019年 7月27日	東京大学大学院理学系研究科 教授 ペプチドリーム創業者、元社外取締役 ミラバイオロジクス創業者、取締役	菅 裕 明	異端は認められた瞬間に先端に変わる :アカデミア研究者としてのイノベーション	
65	2021年 10月7日	—大原記念労働科学研究所百周年シンポジウム— わしらの眼は〈100〉年先が見える			
		【基調講演】			
		作家	江 上 剛	百年先が見えた男—大原総一郎	
		【シンポジウム】大原孫三郎の思いを紡ぐ労働科学研究所—SDGsと地域企業—			
		大原記念労働科学研究所 所長 副所長 研究部長	坂 本 恒 夫 北 島 洋 樹 余 村 朋 樹	研究所の現代的存在価値 人と機械と労働 人と組織と地域	
66	2022年 7月27日	総合地球環境学研究所所長 前京都大学総長	山 極 壽 一	人類はどこで間違ったのか —ゴリラの目で見たコロナ後の社会—	
67	2023年 7月27日	名古屋大学特別教授 2001年ノーベル化学賞受賞者	野 依 良 治	日本人の科学する心とは	
68	2024年 7月26日	大原美術館 館長	三 浦 篤	美術史と異文化交流 —『移り棲む美術』から大原特別展へ—	